

# 当院のオレンジカフェの実績報告 ～現状の報告と今後の課題～

医療法人社団 真療会 野田病院

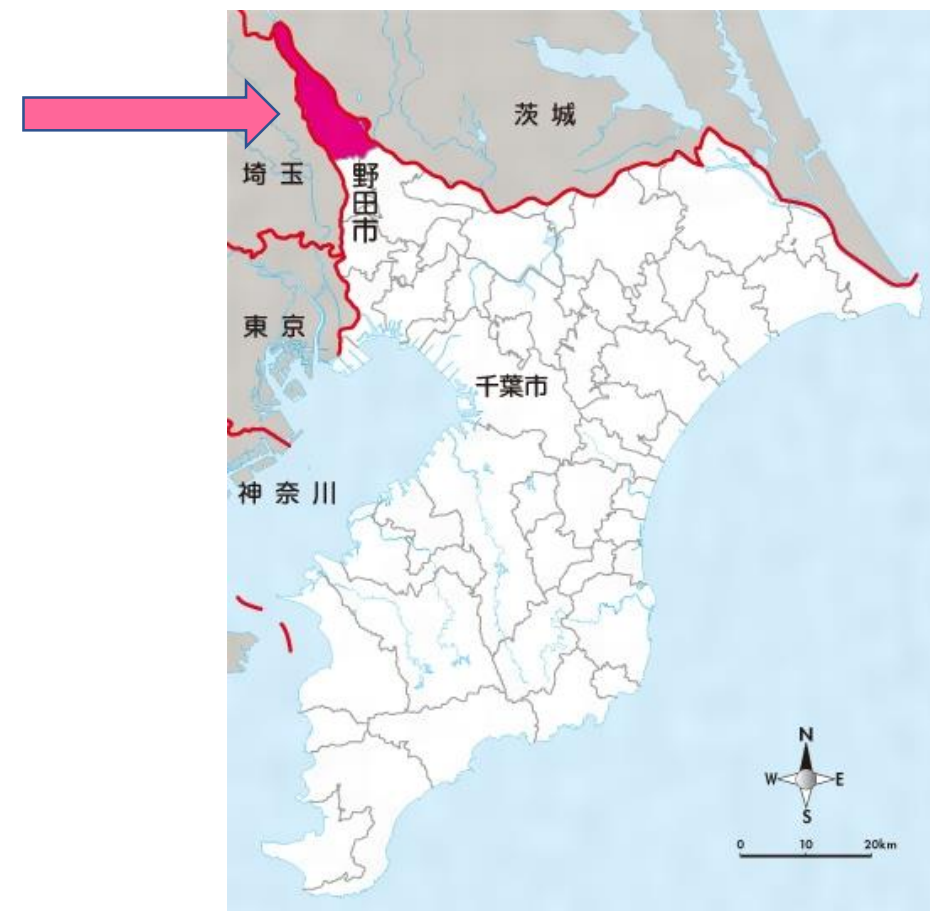
作業療法士

戸谷 由依

# 野田市の高齢化の現状

	28年度	29年度	30年度
野田市	28.8%	29.7%	29.6%
千葉県	26.7%	27.2%	26.4%
全国	27.2%	27.7%	28.1%

検索結果（29年度時点）  
オレンジカフェ：1か所  
サロン：2か所



集いの場や認知症に関する相談窓口が少ない。

# 当院の認知症カフェ オレンジカフェ のだ日和

- 毎月第3土曜日 午後1時半～4時(午後1時から受付)
- 院内の健診センターにて開催
- 参加費は100円 (別途 作品代として200円)
- 作業療法士を中心に運営している
- プログラムは 認知症講座、作業療法士による生活相談、茶話会、脳トレーニング、体操、陶芸を実施している。



# 認知症講座について

- 講師：作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、放射線技師、ケアマネージャー、医師、看護師
- 今までの講演内容：認知症の症状について、認知症の方との接し方、嚥下について、地域での介護ケアについて など



# その他のプログラム



・脳トレ



・参加者による歌の披露



・陶芸



・季節の作品作り

# アンケート内容

- 1、属性（年齢、性別）
- 2、認知症カフェを知ったきっかけ
- 3、参加しての感想
- 4、認知症の方と接した経験の有無
- 5、認知症のイメージ
- 6、認知症講座後に認知症のイメージは変わったか
- 7、認知症講座を今後に生かせるか

## 多肢選択式及び自由記述式

『オレンジカフェ のだ日和』アンケート

本日は『オレンジカフェ のだ日和』に参加して頂きありがとうございます。

皆さまのご意見を参考により良い場所にしたいと思っています。

ご協力お願いします。

■あなたご自身について教えてください。
年齢( )歳 ・ 性別(男・女)
■のだ日和を知ったきっかけを教えてください。
チラシ ・ 友人、知人から ・ ケアマネジャーから ・ 市報 その他( )
■のだ日和はいかがでしたか。
楽しかった ・ 普通 ・ つまらない 理由( )
■陶芸のようにここで出来そうな作業(活動)は何かありますか？
( )
■今後どのような講座に参加したいですか。
( )
■医療従事者に相談したい事・悩んでいる事はありますか。
( )

裏面もあり

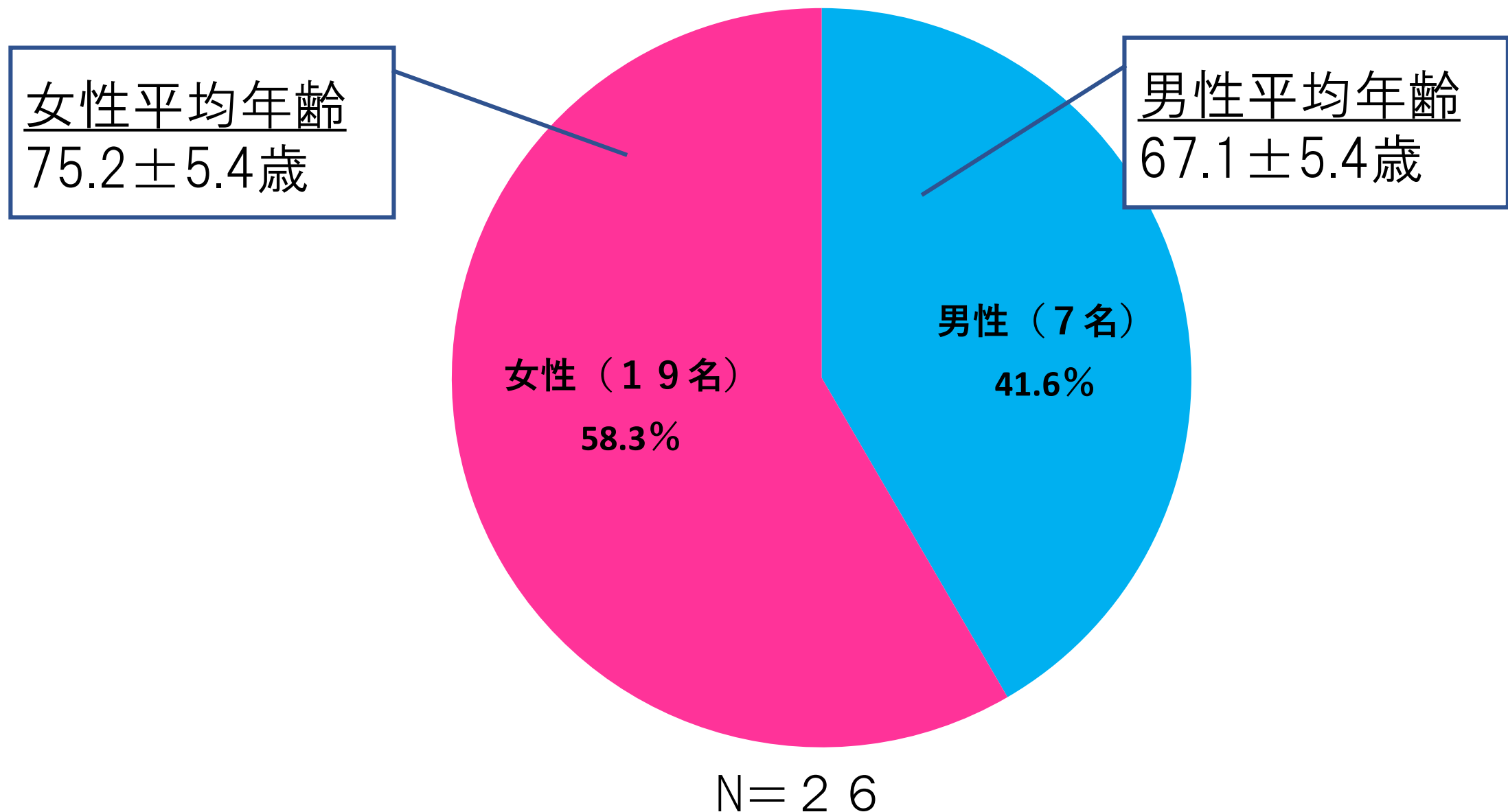
■オレンジカフェに来る前は認知症の方はどういうイメージでしたか？
( )
■今まで認知症の方と接したことがありますか？
はい ・ いいえ ・ わからない
それはどの場面でしたか？
家族 ・ 親戚 ・ 近所 ・ 街中 ・ 仕事 ・ その他( )
■今回の講座を聞いて認知症の方のイメージは変化しましたか？
はい ・ いいえ ・ わからない
理由( )
■認知症の方との関わり方を今後活かす事ができそうですか？
はい ・ いいえ ・ わからない
理由( )
■オレンジカフェの良かった点 【複数回答可能】
・役立つ情報を得る事ができた ・ スキルアップにつながった ・悩みや不安の解消へとつながった ・ 日頃の生活に役に立てそうだった ・他の参加者と交流・情報交換が図れた ・ 運動不足解消につながりそう その他( )

ご協力ありがとうございました。

次回の『のだ日和』でもお会いできることを楽しみにしています。

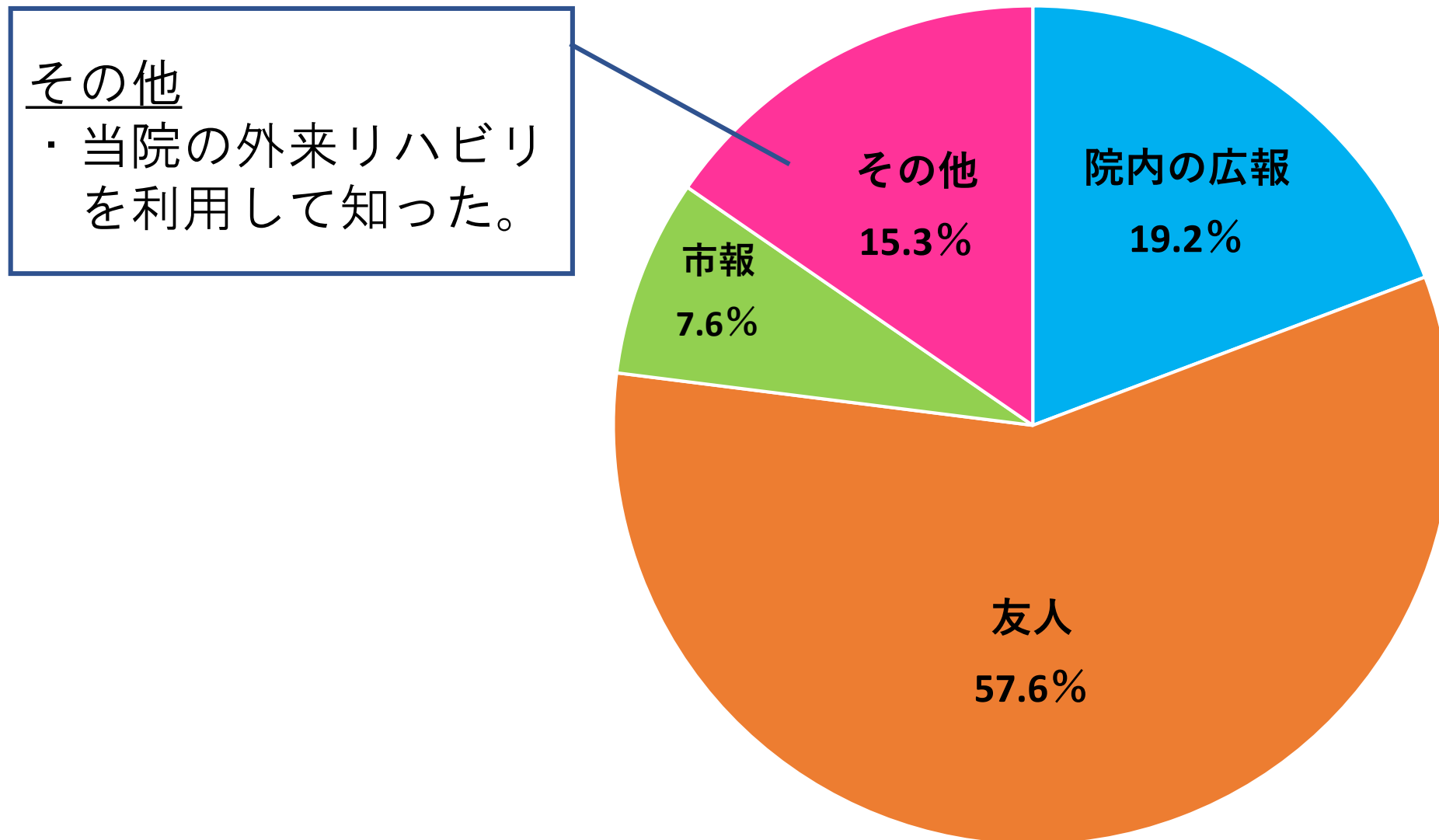
# アンケート結果

## 1、属性（性別・年齢）



# アンケート結果

## 2、認知症カフェを知ったきっかけ

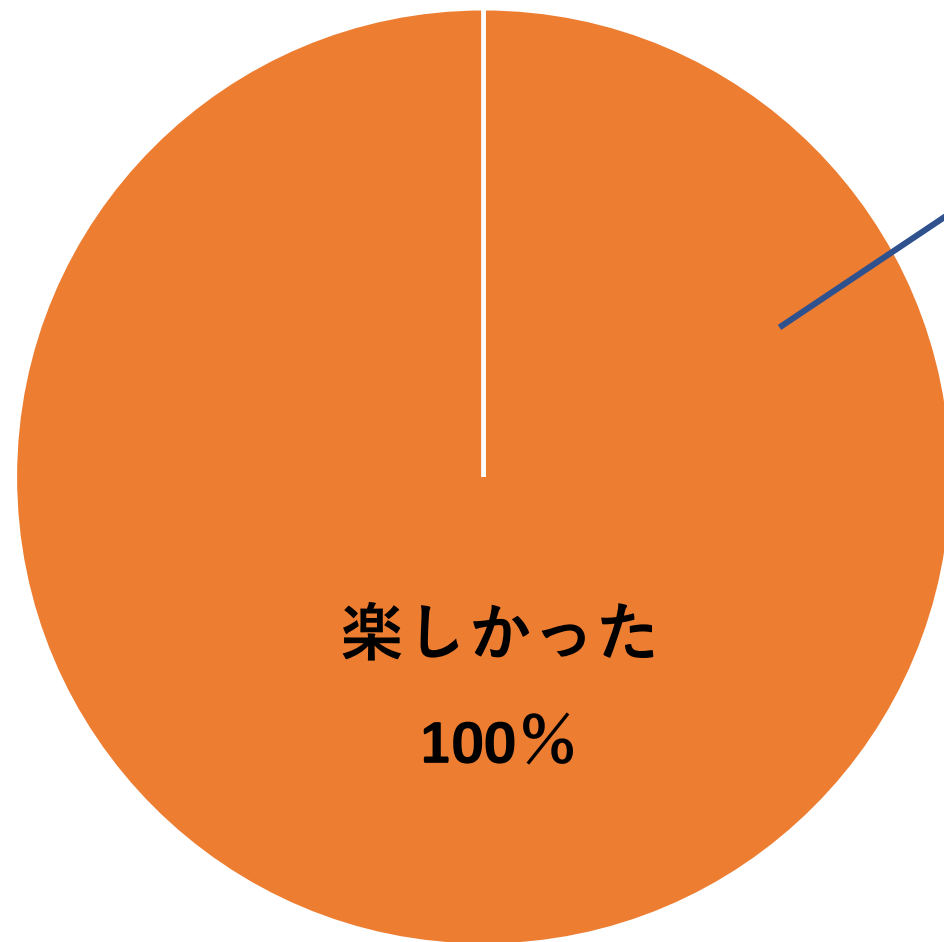


N = 26



# アンケート結果

## 3、参加しての感想



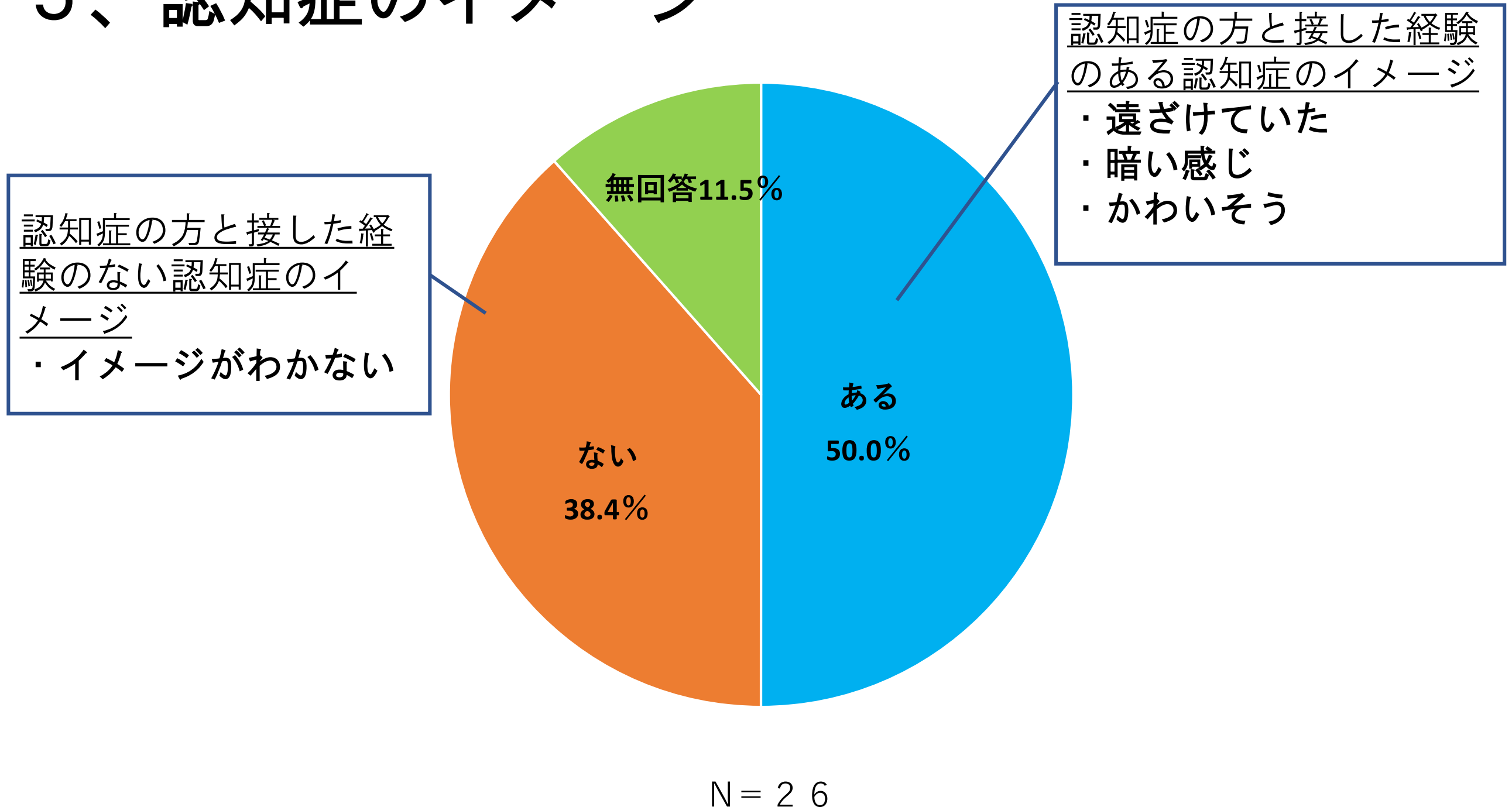
N = 26

- ・ 日々の介護などについて話す機会となり気分がすっきりした。
- ・ どこにも行きたがらない人がここならと外出するようになった。
- ・ 気さくに話が出来た。肩ひじ張らずに楽しかった。
- ・ 脳トレ、プリントが勉強になった。
- ・ やりたかったことに出会えました。
- ・ 常に新しいことを学べる。
- ・ いい外出機会になっている。
- ・ わくわくしながら体にいい。

# アンケート結果

## 4、認知症の方と接した経験の有無

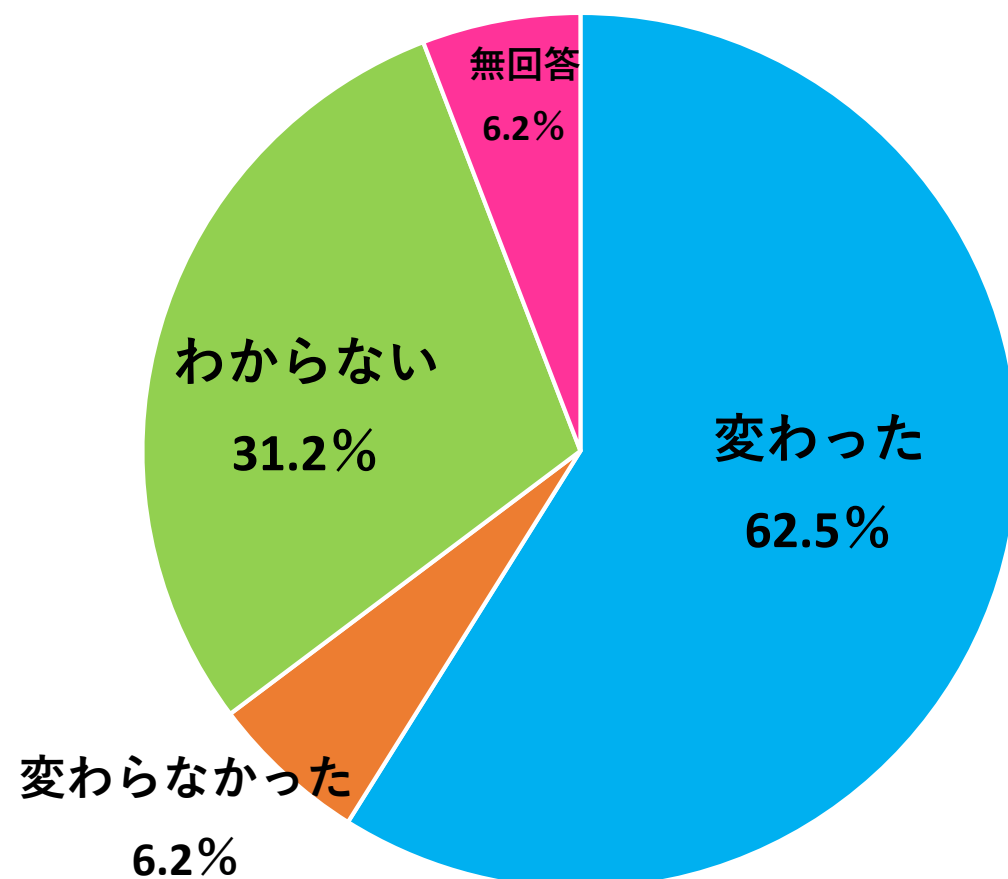
## 5、認知症のイメージ



# アンケート結果

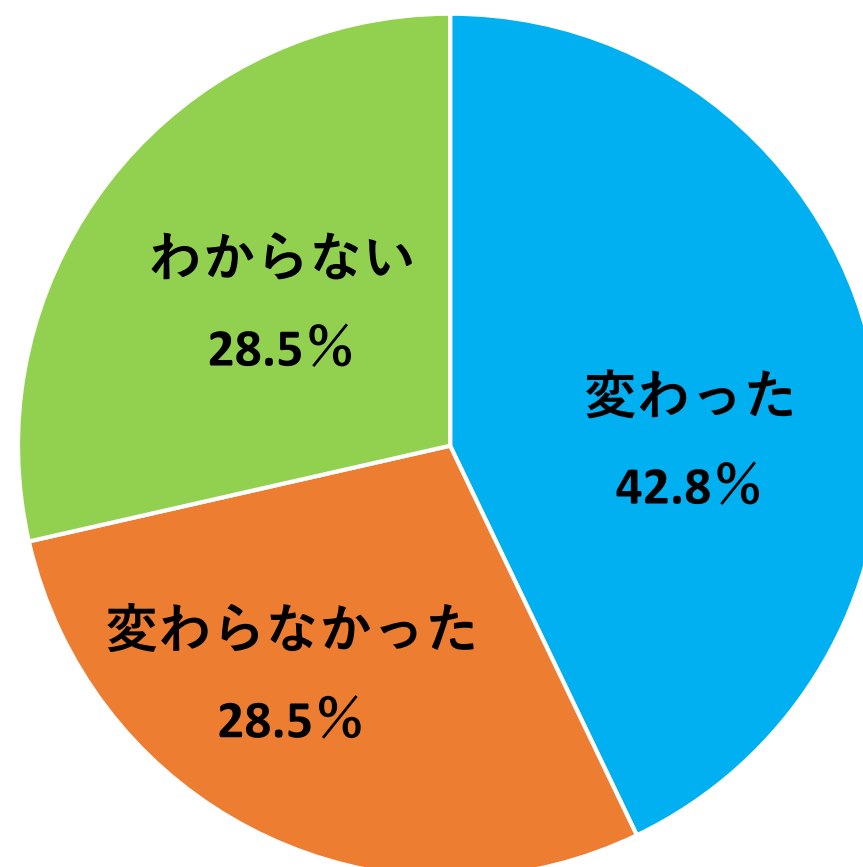
## 6、認知症のイメージの変化

認知症の方と接した経験あり



N = 19

認知症の方と接した経験なし

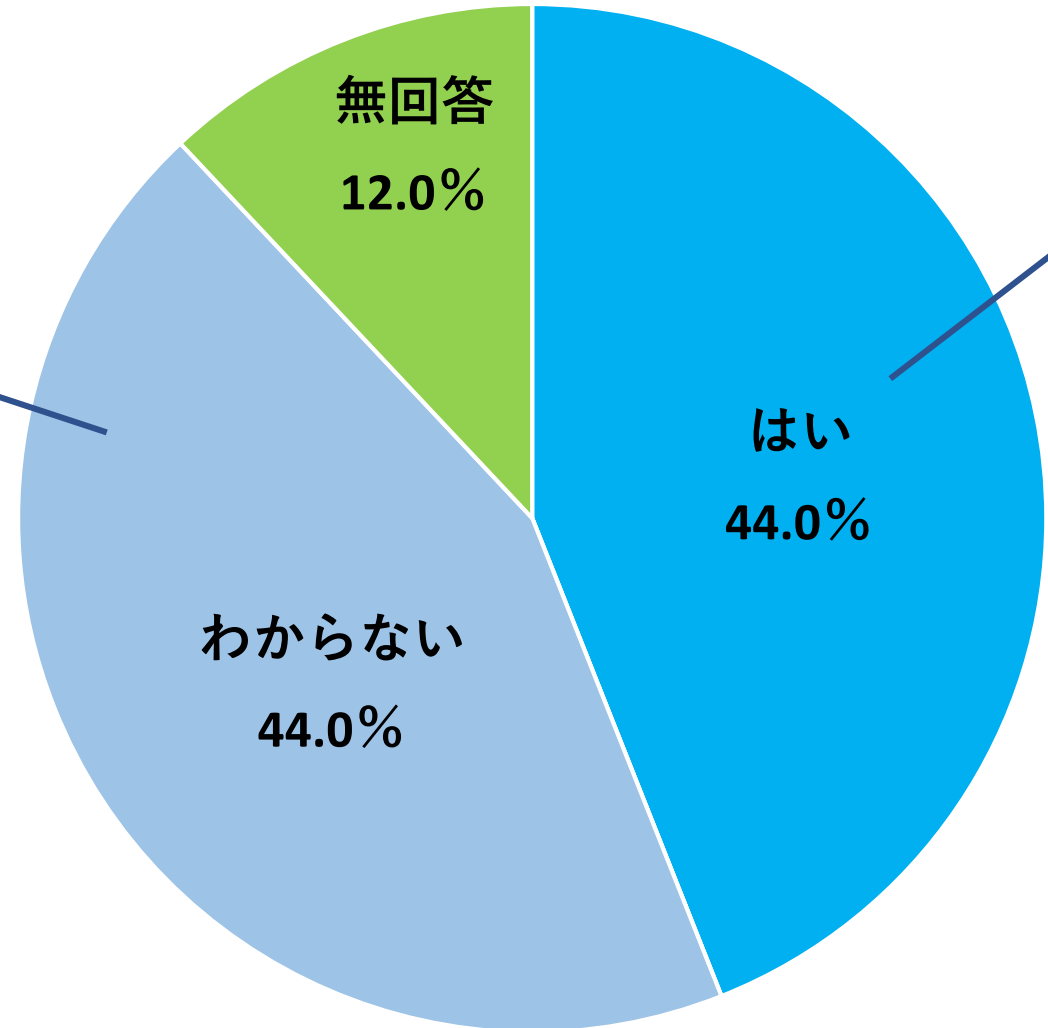


N = 7

# アンケート結果

## 7、認知症講座を今後に生かせるか

わからない  
・日頃の付き合いがありません



はい

- ・少しでも役に立ちたい。
- ・ご本人様の言葉、行動など否定しないように。
- ・認知症の各人の人柄と接しいたわりばかりでなくできる事はさせる

N = 26

# 考察① 認知症のイメージについて

- 接した経験の有無に関わらずネガティブなイメージを抱くことが多い。
- 認知症の方と接した経験のある方のほうが認知症講座受講後にイメージの変化が見られた。
- 認知症の方と接した経験の有無に関わらず認知症講座を今後に生かせるかについて「わからない」が多い。



- ▶ 認知症カフェで認知症の方と接することで具体的なイメージを抱きやすくなり、イメージの変化が見られやすくなる



## 考察② 認知症カフェの必要性

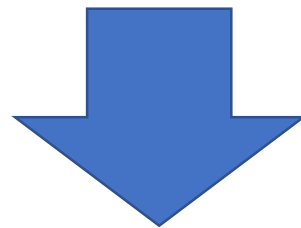


- ▶ 居場所づくり
- ▶ 外出の機会

- ▶ 情報交換(参加者同士、スタッフ)
- ▶ 共感の場

## 考察③ 地域への影響

- Johdan<sup>1)</sup>より態度に関わる要因として知識が重要
- 金ら<sup>2)</sup>より、認知症の人に対する肯定的な態度を高める要因として「認知症に関する知識」や「高齢者イメージ」などが関連していた
- 杉山<sup>3)</sup>より、「認知症に対する受容態度」が高いほど、「初期の認知症症状がみられた場合の受診促進意向」が高い



- ▶ 認知症講座で正しい知識を得ることで肯定的な態度を高められる。
- ▶ 早期受診することで介護予防(周辺症状の軽減、介助者の介護負担軽減)となる。

# 今後の課題・展望

- 正しい認知症の知識の普及  
参加型講座や体験談を語る会の開催
- より多くの人に認知症カフェを知ってもらう  
広報活動や活動の場を広げる、出張認知症カフェの開催
- 地域との連携  
地域包括支援センター、町内会、家族会

作業療法士として『その人らしい生活』の視点から認知症当事者とその家族、関わる地域の在り方に働きかける！





# 参考文献

- 1) Johdan, J.E. (1971) 「Construction of a Guttman facet designed cross-cultural attitude-behavior scale toward mental retardation」 『American Journal of Mental Deficiency』 Vol76 No2, pp201-219
- 2) 金 高閏(2011) 「認知症の人に対する地域住民の態度とその関連要因」、 『大阪府私立大学 学術情報リポジトリ』 60、 p49-62
- 3) 杉山 京(2013) 「地域住民を対象とした家族に認知症症状がみられた場合の受診促進行こうと認知症に対する需要態度との関連」、 『厚生指標』 第60巻第13号
- 西山 沙百合(2018) 「認知症の症状および介護に関する知識と認知症高齢者イメージとの関連」、 『川崎医療福祉学会』 28号 p231-239